

【報告】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究
「人類学におけるマイクロ・マクロ系の連関」第2回公開セミナー

「『坪井正五郎』の著者川村伸秀氏を囲んで」

日時：

2014年1月23日（木）15時～19時

場所：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階マルチメディアセミナー室（306号室）

著者：

川村伸秀氏

コメンテーター：

佐々木史郎（国立民族学博物館）、清水昭俊（AA研フェロー）、関雄二（国立民族学博物館）、
山路勝彦（関西学院大学）

ディスカッサント：

真島一郎（司会）、鳥越久美子（西南学院大学大学院）、中生勝美（桜美林大学）、三徳洋一（弘
文堂）、太田八紘（市井人）、西井涼子、三尾裕子、栗原浩英、高島淳、中見 立夫、佐久間寛、
藤野陽平（以上、AA研）

内容：

本公開セミナーの合評対象となったのは、昨年9月に上梓された川村伸秀氏の単著『坪井正五郎
— 日本で最初の人類学者』である。

当日の会場では、国内の主要各紙に掲載された上記著作の書評（『毎日新聞』2013年11月10日、
張競評；『朝日新聞』2013年11月17日、出久根達郎評；『日本経済新聞』2013年11月24日、川村
邦光評）、および『図書新聞』3138（2013年12月14日）号に掲載された対談記事が、参考資料と
して出席者に配付された。

セミナーでは、はじめに川村氏が、全18章からなる本書の構成につき、パワーポイント資料、お
よび坪井家・佐渡家・長崎家・荒井家・箕作家の家系図資料をまじえながら概要説明を行った。つ
づいて、下記4名のコメンテーターによる、本書へのコメント発言がなされた。

1. 佐々木史郎氏（国立民族学博物館） アイヌ関連の視角によるコメント
2. 清水昭俊氏（AA研フェロー） 日本人類学史の視角によるコメント
3. 関雄二氏（国立民族学博物館） 考古学・先史学史の視角によるコメント
4. 山路勝彦氏（関西学院大学） 「学術人類館」史の視角によるコメント

いずれのコメントも、坪井正五郎が生きた時代状況に前後する民族・学史・社会史的背景を軸と
した、詳細かつ濃密な事実関係にもとづく発言となり、出席者全員をまじえて既定の時間いっぱい
まで活潑な討論が展開した。

当報告の内容は著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.